

【ふくしま復興再生道路】

一般国道399号 十文字工区 開通式 (令和4年9月17日開通)



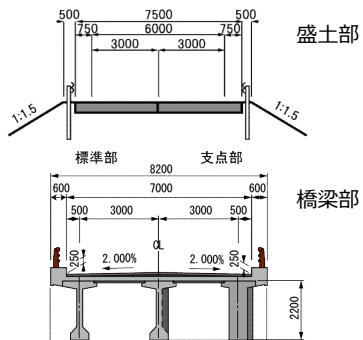
現道の状況



1工区（県施工）の工事状況



道路幅員

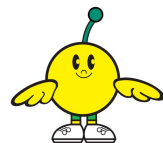


事業経過

年度	内容
平成23年度	現地測量
平成24年度	道路・橋梁予備設計、地質調査
平成25年度	道路・橋梁・トンネル詳細設計
平成26年度	用地買収着手
平成27年度	国直轄権限代行事業採択（トンネルを含めた延長約3.3km）
平成28年度	県が道路改良、橋梁工事に着手、国がトンネル工事に着手
令和3年度	国直轄権限代行事業が完了し、県に引渡し（9月30日）
令和4年度	県工事が完了し供用開始（9月17日）

福島県いわき建設事務所

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15
TEL: 0246-24-6103 FAX: 0246-24-6256
ホームページ <https://www.pref.hukushima.lg.jp/sec/41380a/>
Instagram https://www.instagram.com/iwaki_const/
メールアドレス iwaki.ken@pref.hukushima.lg.jp



【ふくしま復興再生道路】 一般国道399号 十文字工区

工事箇所：福島県いわき市小川町上小川地内

— 令和4年9月17日開通 —



十文字トンネル（国施工）L=2,875.0m



内倉湿原1号橋 L=151.1m



内倉湿原2号橋 L=105.0m

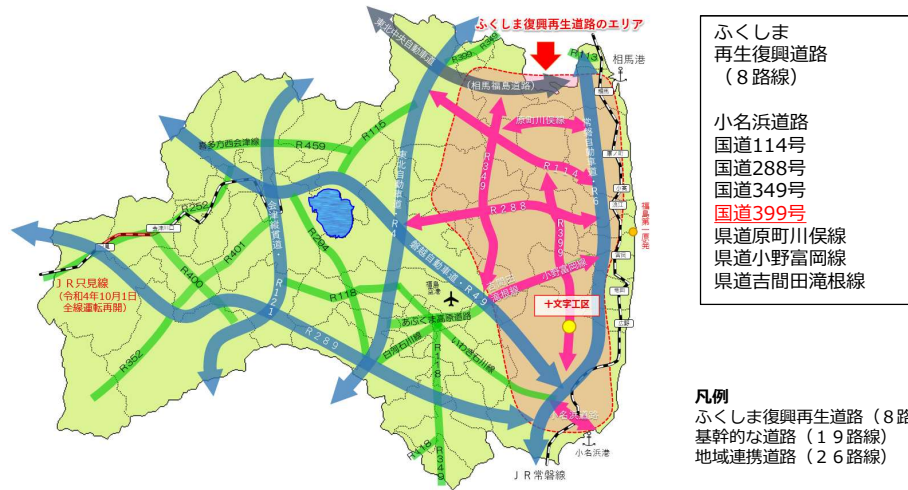


福島県いわき建設事務所

路線概要

国道399号は、いわき市平を起点とし、川内村、田村市、葛尾村、浪江町、飯館村、伊達市及び福島市を經由し、山形県南陽市へ至る延長約167kmの幹線道路です。そのうち、起点から浪江町津島地区の国道114号に至る区間は、「第2期福島県復興計画」の「避難地域等復興加速化プロジェクト」の主要事業の1つ「ふくしま復興再生道路」に位置付けられ、避難地域の復興や帰還した住民の安全で安心な暮らしを支援する道路として、重点的に整備を進めています。

ふくしま復興再生道路とは



事業目的及び事業概要

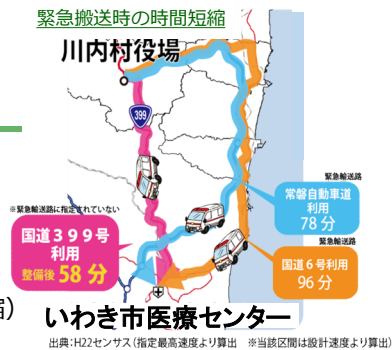
いわき市小川町上小川地内においては、幅員が狭いうえに急カーブ・急勾配が連続し、異常気象時通行規制区間(連続雨量120mm)となっているため、安全な交通の確保が課題になっていました。そのため、平成23年度よりトンネル(延長約2.9km)と橋梁2基(延長約150m及び約100m)を整備する延長約6.2kmのバイパス計画に着手しました。

○十文字工区の3つの特長

- ✓ 急峻な地形を克服するため、長大トンネルを含むバイパスとして道路幅員7.5m、最小曲線半径を160m(現道30m未満)、最大縦断勾配を6%(現道18%)とし、円滑な交通を確保
- ✓ 落石や法面の崩壊等の恐れがある箇所を回避した災害に強い道路(現道における対策必要箇所 5箇所)
- ✓ 直轄権限代行による事業の加速化

整備効果

- 地域の医療の環境改善**
(川内村からいわき市への緊急搬送時の時間短縮)
- 産業振興の支援**(常磐自動車道へ迂回していた企業も物流ルートとして利用が可能)
- 通勤・通学を支援**(川内村→いわき市が通勤圏となる)
川内村役場からいわき市役所の所要時間60分(10分短縮)
- 災害時の緊急避難道路とした安全性の確保**



平面図



2工区(国施工)の工事状況

十文字工区のうち、終点側の約3.3km区間(うちトンネル:L=2,875m)については、技術的難易度が高い(低土被り・湧水対策等)ことから、権限代行事業として国において事業を進め、令和3年9月30日に工事が完了し、福島県に引き渡しました。

[十文字トンネル]



工事中の排水処理



トンネル内の湧水

工事状況



トンネルの貫通(令和2年5月)

完成後の状況



トンネル内部

工期縮減の取組み

覆工コンクリートの打設に用いるスライドセントルを大型化(10.5→12.5m)することにより、打設回数を減らし、当該作業の回数を約16%短縮しました。

